

全学共通科目 総合系科目担当者連絡会筆録

2021 年度秋学期の開講に向けて ーオンライン授業の実践例紹介ー

日時：2021年7月30日（金）17時30分～19時00分
開催方法：Zoomによるオンライン開催

事例紹介

堀川 修平（全学共通科目兼任講師）

砂押 以久子（全学共通科目兼任講師）

司会

前田 泰樹（全学共通カリキュラム運営センター総合系科目構想・運営チームメンバー／社会学部教授）

前田（司会） 本日は、お二人の総合系科目担当者にオンライン授業の実践例のご紹介をお願いしております。最初に、「人権思想の根源」という科目でグループワークを取り入れた授業を行っていらっしゃる堀川修平先生にご紹介をいただきます。

グループディスカッションを取り入れた授業方法

堀川 修平（全学共通科目兼任講師）

ジェンダー・セクシュアリティ問題を 「学問知」を通して捉えてもらう工夫

堀川 私の担当している「人権思想の根源」という授業では、グループディスカッションを取り入れています。本日はそれについてご報告いたします。はじめに、ここに2020年度の秋学期の「学生による授業評価アンケート」から学生のコメントをいくつかピックアップしました。すべて自由記述のものですが、例えば「『教える』ではなく『考える』授業になっている」とか、「定期的にグループディスカッションを行うことで、他の学生と意見共有ができた」ということが良かった点として挙げられていました。こうした結果に繋がったと考えられる、私自身が授業で取り入れているグループディスカッションとコメントシートの利用について、本日のご報告で皆さんと共有できたらと思っています。

この授業のサブタイトルは、「じぶんごととして、ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点から〈教育〉と〈社会〉の『あたりまえ』を問いなおそう」としています。これは私自身が教育学を専門とし、特にジェンダー・セクシュアリティにかかわる点で教育学の研究をしているからです。

受講者数は春学期と秋学期で、池袋キャンパスと新座キャンパスとで授業をしてい

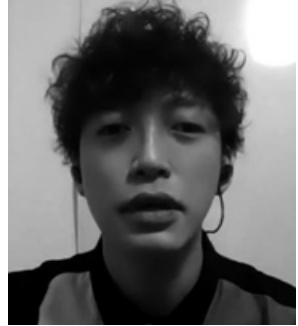
ますので、キャンパスによって人数の開きがありますが大体 70 人から、多いときには 260 人程度となっております。本年度の春学期の受講者数は 150 人ちょっとでした。対面式、非対面式のどちらの授業方式でも、グループディスカッションを積極的に採用しております。また、学生自身に当事者性を持ってもらえるような工夫を授業の各所に配置しています。

授業のねらいは、いわゆる日常のジェンダー・セクシュアリティ問題を「学問知」を通して捉えられるよう、学生を育てることです。ジェンダー・セクシュアリティ問題は、昨今の学生にとっては学問的、理論的なものとして、日常生活としては遠い話、あるいは他人事と捉えられている現状があります。ジェンダー・セクシュアリティ問題は、もともとフェミニズム運動から始まっています。フェミニズム運動では「個人的なことは政治的なこと」をスローガンとして日常にある差別問題を解決するために理論化してきました。それをぜひ大学の授業でもやってみたいと考え、授業を設計するときの一つの参考にしております。ですので、学生には授業内でも「日常」というものを強く意識してもらえるよう、授業を終わって一歩外に出たときの日常生活と今日学んだことがどのようにリンクしていくのか、ということを意識してもらえるような工夫を施しております。

工夫の一つとして、フレッシュな時事問題を積極的に教具・教材として採用するということを行っています。今年度の春学期であれば、日本のオリンピック委員会臨時評議員会での女性蔑視発言問題や、LGBT 理解増進法とそれに関する政治家の差別発言などを取り上げ、そうした問題が日常的に自分たちの身近にあるものなのだと意識してもらうことができました。特に、今回なぜこの授業を受講したのかということや授業の初回で聞いたところ、この「女性蔑視発言」が非常に気にかかり、「ジェンダー」という言葉がサブタイトルに入っている授業をとってみたいと思ったという学生が多いことが分かりました。

また、全カリ授業のゲスト・スピーカー制度を積極的に活用しています。社会運動の第一線で活躍している学生と同世代の方をゲスト・スピーカーとしてお呼びすることで、学生の方々にも、社会問題をより身近なものに感じてもらえるようにと考えています。

これに加えて、学生のコメントシートの共有を積極的にしていることも挙げられます。なぜコメントシートのお話をするのかというと、グループディスカッションをする理由にも重なっているからです。この 2 点を、このあと説明いたします。



堀川 修平

コメントやグループディスカッションを積極的に用いる理由

「授業内容と方法」について解説します。授業の前提となるのは、学生の肌感覚というか、日常での出来事を授業のベースにしているということです。まず前回の授業に対するコメントへの応答をリアルタイム配信で行います。そのあと、各回の課題内容をオンデマンド方式で配信します。場合によっては、Zoomのブレイクアウトセッションを使ってディスカッションをすることもありますが、私から一方的に資料を提示して説明していくという回もあります。動画資料を見てもらうときには、例えば前半を説明として後半に動画を見てくださとか、1時間をかけて見てくださなど、指示を出しながら授業を進めています。授業で特に分らなかったこと、もやっとしたことについてはコメントを書いてもらい、それを授業の終わりに立教時間を使って提出してもらい、それをまた次の授業の冒頭で学生と共有する、という形で授業を進めています。

コメントやグループディスカッションを授業方法として積極的に用いる理由はいくつかあります。まず一つ目に、「授業を学習者と教員との学び合いの場にするため」です。双方向性というものを非常に重視しているので、そのためにコメントとグループディスカッションを方法として用いています。そのため課題として、学生には毎時間コメントを書いてもらっていますが、それを提出してもらっても内容にまったく触れないと、何のためにやらされたのだろうか、と学生は思ってしまうので、全員分は扱えませんが、必ずコメントに対するレスポンスを行っています。コメントの中でも授業にかかわる内容をいくつかピックアップして、「こういうふうを考えている方がいますが、皆さんはどう思いますか?」と、学生と授業の冒頭で問いかけて、考えてもらうきっかけにしています。それと同時に、何のために課題を出しているのかを必ず説明するようにしています。例えば「今日のコメントに関しては、こういうことを考えてほしいからコメントを書いてください」などと丁寧に説明することによって、「何のために」課題を出しているかの教員のねらいを伝え、意識的に取り組んでもらえるように工夫しています。

二つ目には、主にグループディスカッションは「学習者同士での学び合いの場にするため」です。教員と学生が双方向的であるのはもちろんですが、さらに、学生同士での双方向的な学び合いをしてほしいと思っています。ディスカッションはそのために行います。特に私の担当する科目は「人権」ですので、ジェンダー・セクシュアリティ問題や政治の問題も扱います。学生には、性や政治について意見を持って表明して良いのだということを知ってほしい、グループディスカッションを通して、意見表明をする練習をしてほしいと考え、授業を行っています。いきなりディスカッションをすることは基本的にありません。授業の3回に1回、ないし4回に1回のペースでディスカッションを入れていきます。全体が15回の授業であれば3~4回ディスカッションをやることにしています。大抵まとめや導入としてディスカッションを行っています。私は春学期に関しては、一つのテーマについてほしい4回の授業で行っています。3回レクチャーや資料を見ながら学生に解いてもらうということをしなが、最後の1回で、ここまで

の学びでどうということが理解できたのか、理解できなかった、どうということが気になったのかななどをディスカッションしてもらっています。

私から学生たちに伝えると、教員だからそう思うのではないかと、ちょっと年の離れた大人だからそう思うのではないかと捉えられ、私たちには関係ないよね、と思われることがあります。しかし学生同士で語ってもらうことによって、同年代の人も教員と同じように、学問的なことをベースとして物事を考えているのだ、ということ把握してもらうきっかけにもなっています。それによって、自分の考えを客観化、相対化する経験をしている学生も多くいるということが、コメントからもよく分かります。

授業の質を高めるためにも、学生のコメントを取ったあとや、グループディスカッションをしたあとに、必ず全体共有をするようにしています。その際、私自身、その視点は持っていなかったなとか、それについて私のほうでも調べてみようと思うこともあり、自分自身が学生のコメントから勉強になったことについて説明するようにしています。このようなことを伝えることで、学生もどんどん意見を言っているのだと思うようになり、授業自体が非常に深まっていき、回が進むにつれ、学生からも自由なコメントが出るようになっていきます。

コメントやグループディスカッションの効果は、学習者同士での学び合いが、円滑になされるようになってきているということです。この2年に関しては、Zoomを使ってブレイクアウトルームでディスカッションをしたのですが、これが、ピュアプレッシャーの回避になっていることが、私自身、一番いいなと思っているところです。

対面授業のときは大講義教室で席を自由にしているところもあり、友人同士が固まってしまうことがあります。対面授業でもディスカッションをしますが、近くに座った友人同士で行うために、普段なかなか話すことのない性や政治について真面目に語れなくなってしまったり、誰か一人がだらけてしまうと、みんながディスカッションしなくなってしまったり、ちょっと困ったなと思っていました。しかしZoomのブレイクアウトルームだと、ランダム機能を使うことで毎回違うメンバーと組み、そこでは知らない人と組むこともあるので、それによって真面目に語らなければいけないと思うようになり、また周りのグループがどのようにやっているのかが分からないため、ちゃんとやらなくてはと思いながら意見交換ができるというところがあります。

学生からのコメントですごく面白いなと思ったのは、「普段はゼミでふざけた態度ばかりしている××さんが、自分の意見も含めて真面目に語っているのを見て××さんのことを見直しましたし、私も堂々と意見を言わねばと思いました。次も頑張って参加します！」というものです。これは多分、対面の授業ではなかなか起こり得ないことなのかなと思いましたし、そうした意味ではZoomでのブレイクアウトルームのディスカッションは有効なのだと思います。

また、学び合いによるエンパワーメントというものもあると思っていて、学生にとって自由に意見を言えるという場が保証されることによって、性や政治というどちらかというと私たちの実生活の中で、タブー視されがちなものに関して真剣に語れる、語っ

ても大丈夫なのだ、と自信を持って意見表明ができるようになっていると実感しています。

グループディスカッションの留意点

グループディスカッションの留意点ですが、まず予告を徹底しています。学生にとってはビデオで顔を出すことにハードルを高く感じている人も多いようなので、いつディスカッションをするのかを、前の週には必ず伝えるようにしています。前の週までに案内が間に合わないときは立教時間のメール機能を使って、授業の予定表に「音声 & ビデオ ON の準備を」と書き込んで連絡しています。

またルールの共有、いわゆるグラウンドルールを5つ設けています。特に性や政治、人権問題にかかわる話なので、その点に関して、例えば人の話を最後まで聞いてからディスカッションをしていくとか、自分の言葉や発言が他者を不快にさせていないかどうかを考えるなどを共有しながら、やっています。

- 1 相手の話は最後まで聞こう！
- 2 一人が会話のボールを持ちっぱなしにならないように！
- 3 画面越しの相手の存在に敏感になろう！
- 4 相手との違いを大切にしよう！
- 5 もちろん、人権侵害が起こらないように！

これは今年から取り入れていることですが、Zoomに関してプライバシーにかかわること、特に呼称に関しては気を付けています。私はZoomのときは、出席番号と名前を表示して参加するように伝えていますが、学生にはトランスジェンダーの方もいて、学校側には手続きを済ませておらず、自分の本名を出したくないという場合もあります。これは他大学でもよくあることです。それに関しては、初回の授業のオリエンテーションでも徹底していますが、履修者名簿で表示されている名前ではない表示名にしたい場合は、私にあらかじめ事情を伝えるよう指示しています。私さえ知っていれば履修者名簿の名前と結びつけて出席を確認できるので、学生にその点を伝えていきます。

その他のグループディスカッションの留意点ですが、多くの学生がZoomで顔出しすることに抵抗があるようです。これは今年の学生から出た質問ですごく驚いたのですが、顔出ししない代わりに、Webカメラを使って自分の顔をキャラクターで表示するソフト「FaceRig」を使用して参加してもいいですか、と質問がありました。実際に学生が実例を見せてくれたのですが、結構表情が読み取れるものでした。グループディスカッションのときに、相手が自分の話を真剣に聞いてもらえているのだと認識できる程度に表情が見えるのであれば良しとして許可し、ディスカッションがうまくいくように表情を見えるようにしてね、と伝えました。

グループディスカッションの参加自体が難しいという学生も例年何名かいらっしい

ます。「しょうがい学生支援室」を通して連絡をいただけますが、基本的に学生本人と相談した上でどのように対応するか決めていきます。春学期のグループディスカッションでは、「私と1対1でも良ければディスカッションをしますか?」と聞いたところ、それならば参加したいということだったので、私と1対1でディスカッションをしました。春学期は4回ディスカッションを行いました、その学生は全部参加してくれ、全体を通して授業もほぼ休まずに出てくれたので、学生にとっては良かったのかなと思います。ご参考になればと思います。

駆け足だったところもありますが私からは以上です。ご質問等あれば、のちほど時間があると思いますので、その中でご質問をいただければと思います。ご静聴ありがとうございました。

前田 (司会) 堀川先生ありがとうございました。次は、「日本国憲法」という科目でオンデマンドとリアル配信を組み合わせた授業を実施されている砂押以久子先生にご紹介いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

「オンデマンドとリアル配信を組み合わせた授業」

砂押 以久子 (全学共通科目兼任講師)

授業のご紹介

砂押 あまり高度な内容ではなく、本当に私でふさわしいかどうか分かりませんが、オンライン授業の取り組みの事例をご報告いたします。

私は、全カリ総合系科目で「日本国憲法」を担当しております。担当している授業のご紹介ですが、近代憲法・明治憲法・日本国憲法の成立およびその概要に触れ、象徴天皇制・平和主義・基本的人権について学んだうえで、現実に生じている憲法をめぐる問題について、検討・考察することを内容とする授業です。

現実の憲法問題はいろいろとあり、テレビやニュースでも問題になっていますが、目的としては憲法に関心を持ってもらうことと、いかにこの日本の社会で憲法にかかわる問題が多く生じているか、そして、いろいろ現代的な問題が憲法といかに絡んでいることを知ってもらうというものです。日本国憲法については、主権の国民である私たちがどうするかということを考えなければなりません。若い人たちは憲法に関心が薄いですから、関心を持ってもらえるように、なるべく具体的な内容にしています。

まず近代憲法について、例えば近代憲法ができる前にはどんな思想があったか、そしてそこから近代憲法がどのようにして生まれてきたかということについて取り上げ、そして次に明治憲法です。なぜ明治憲法をつくることになったのか、内容はどのようなものだったのか。この明治憲法下で日本は戦争に突き進み敗戦したわけですが、大正デモクラシーという非常にリベラルな時代が生じたにもかかわらず、なぜ戦争に突き進むこ



砂押 以久子

とになってしまったのか。そうした危険性というのは常にあるものなので、現代では戦争に突き進む心配はないのかという視点から明治憲法を捉えます。そして、その次に日本国憲法に入ります。ご存知のように日本国憲法は、敗戦し、GHQに占領されている間にスピード作成されたものです。日本国憲法がなぜそのように成立したのか、またその概要にも触れます。次に取り上げるのは、象徴天皇制です。天皇制に関しては学生の関心が高いようで、女性天皇／女系天皇や眞子様との結婚の問題などがあるからかもしれませんが、質問が多く寄せられます。

そして平和主義についてですが、これは憲法9条の問題です。9条がどのようにでき、どのように解釈され、政府あるいは裁判所がどのように判断してきたかということです。この問題では、安全保障や集団的自衛権の問題も絡んできます。9条に基づく平和が大切だという人と、9条があるから中国などの脅威に対して日本は対抗できないなど意見が二分されています。どんな意見を持ってもいいのですが、まず関心を持つことが重要です。今まで個別的自衛権と集団的自衛権の違いも分かりませんでしたという学生が、やっと分かるようになり、自分なりの意見を持てるようになったということをよく耳にします。

あとは、いわゆる基本的人権ですね。それを学んだうえで、現実の憲法問題をいろいろと検討していきます。一番最近の問題では、選択的夫婦別氏制度です。このあいだ最高裁がまた判断を出しましたが、これは婚姻における両性の平等の観点で、違憲ではないと判断されています。少し前ですと婚外子差別ですね。非嫡出子差別もようやく、最高裁が相続に関して違憲だと判断をし、裁判所のスタンスもだいぶ変化しているということがいえます。あとは表現の自由についてです。これに関して最近では、SNSによる誹謗中傷などいろいろな人権問題が出てきていて、自殺された方もいて、かなり学生の関心が高い問題です。表現の自由に関連して知る権利についても触れます。日本がいかに情報開示に遅れをとっているのか。アメリカと比べると驚くほどの隠蔽体質であることが分かります。

また冤罪の問題や、刑事手続も取り上げています。憲法上は刑事手続の規定自体は素晴らしいものですが、現実にはかなり冤罪が多いことが指摘されています。悪いことをしなければ警察に捕まることはない信じ普通に暮らしていたとしても、突然逮捕されることもあり得るんです。そこで冤罪が起きないためにはどうしたらいいのかなどについて考えます。

ジェンダーの問題に関しては、法の下での平等では、民法上いまだに男女の差別が残っていることや、雇用におけるさまざまなジェンダー問題など、関心を持ってもらえるテーマを幅広く紹介するようにしています。

学生の反応は非常に正直なもので、問題に対して怒りを素直に表現したりして、憲法という堅苦しいイメージがありますが、次第に身近な問題なんだという感覚を持つようになってきているように感じています、憲法問題を自分たちの問題なんだと意識してもらえるような授業になるよう努めています。

授業形式については、コロナ禍以前は講義形式の対面授業でした。コロナ禍以降は、オンデマンド（動画配信）とオンライン授業（リアル配信）を組み合わせで行っています。コマ数はかつて1コマだったのですが、現在では2コマで同じ授業を2回行っています。履修者数は各100～200名ですが、対面では300名くらいということでした。

授業の準備・運営方法について

授業の準備については、パワーポイントで文書を作成し、パワーポイントの「スライドショー」で音声を吹き込み、「ビデオ動画」を作成するというやり方です。そして立教大学から提供されているIDを使い、Google Driveへ「ビデオ動画」をアップロードし、そのリンク先をコピーします。それからBlackboardの「教材」に、動画のリンク先およびオンライン授業のZoomのリンク先を知らせ、レジュメを添付するという形で行っています。

授業の流れについてですが、動画は大体60分前後の長さのものを作っています。授業では、動画を視聴し、レジュメを読んでもらい、質問・意見があれば授業時間終了の30分前までに私のメールアドレスにメールを送信してもらっています。そして授業時間終了25分前に、あらかじめ知らせたZoomのリンク先にアクセスしてオンライン授業を行うという形をとっています。

メリットとしては、あらかじめ録画をすることで同じ授業を繰り返す必要がないことが挙げられます。2コマあるので、対面授業だとまったく同じ内容を繰り返さなければなりません。その労力を減らすという点ではメリットがあります。2番目のメリットとして、録画する際、何度もやり直せることです。通常の対面授業では少し反省する点があっても、やり直すことはできず、それで終わってしまいますが、録画の場合は何度もやり直すことができるので、授業内容の質を向上させることができます。

もう一つは、オンデマンドだけでは授業の実感が得られにくいものです。そこで、オンデマンドにオンライン授業を組み合わせることで、学生とリアルタイムで向き合うことができ、対面授業に近い効果を得られるというメリットがあります。

苦勞した点

苦勞した点ですが、私はアナログ人間でして、当初、オンライン授業をやることになったとき、私には無理なのではないかと途方にくれました。立教大学の教務事務センターの担当者の方に本当に根気よくご指導いただいた結果、なんとか動画作成技術を習得す

ることができました。

大変だったのは、セキュリティの観点から、授業の配信は立教のアカウントからのアクセスに限定していますが、「立教のアカウント以外からアクセスできない」という旨のメールが受信箱に多数舞い込んだこと、また、オンデマンドは公開時間を限定していましたが、公開時間外の動画への「アクセス権のリクエスト」がメールの受信箱に山のように来て大変困惑したことです。これについては、Blackboardの「お知らせ」や「教材」のコメント、オンライン授業においても、そのような行為を行わないように学生に再三お願いしました。しかし何度伝えても立教以外のアカウントから入ろうとして、入れないと訴える人は無くなりませんでした。

また、授業に関係のない質問・意見が来ることがあり、質問・意見は授業に関係した内容に限ることを伝達しました。憲法についての質問・意見については多少授業とかけ離れていても受け付けますが、授業内容とあまりにかけ離れた政治的意見などを朗々と語る学生もいて、しかも結構しつこかったりして、対応に苦慮しました。この点については、初回授業で行う「授業の進め方について」の説明動画で、他の点も含めいくつかの注意点に触れようと考えています。

オンデマンド視聴後に学生から質問・意見が来て、それについて私が解説やコメントをしますが、そのコメントが学生自身の意見と少し違っている場合や学生の誤りを指摘した場合に多いのですが、それについて再びメールが来ることもありました。対応いたしました。食い下されると、学生と個人的にメールのやり取りをエンドレスに行うことにもなりかねず、受講者数も多いのでとても手が回りません。そこで、質問・意見を受け付ける意義について、授業で分からなかった点や授業内容に関する意見を皆で共有して、それについてもう一度詳しく説明し、理解を深めることにあり、個人的な意見交換を目的とするものではないと、学生個人にかなりはっきりと申し上げました。

学生の声から

「学生による授業評価アンケート」の自由記述では、授業の良い点については、「オンデマンド式の動画に加えて質疑応答の時間があったこと」や「オンデマンドであったため、繰り返し授業を見ることができたこと」などがありました。非常に熱心な学生は動画を何度も止めて見ることもあるようですが、オンデマンドの良さはそうした聞き直すことができる点にあると思います。また、「オンライン授業での具体的な事例の説明も多く分かりやすかった」という声もありました。これはオンデマンドで一度見てある程度理解したうえで具体的な事例について話すと、理解が深まることがあったようです。あとは「オンデマンドとリアルタイムのバランスが良かった」とか「レジュメの資料が分かりやすかった」「内容がきちんと分割されていて復習しやすかった」などの意見をいただきました。

これまで長年にわたって行ってきた一方方向の講義形式の授業では、たまに質問も寄せ

られますが、学生が何を考えているか分からないところもありました。今回、オンライン授業で質問・意見を受け付けるようにしましたら、学生にもそれぞれ、いろいろ思うことがあるのだなと感じた次第です。先ほど述べました SNS の誹謗中傷により自殺した事件など、心に残った問題に関して質問してることがあり、対面授業の一方的講義ではなく、双方向な講義を行うことができたなと思います。また学生は人前で発言することを躊躇する傾向にあるようですが、オンライン授業だとメールで密かに質問・意見を送ることができ、そこに学生はメリットを感じるようです。私は誰から来たのか分かりませんが、名前を出さずに質問・意見を紹介して解説するので、気楽に質問・意見を教員に伝えられるようです。質問・意見が多く出されるという点で、今までよりは授業の質は向上できたのではないかなと思います。私としましては、対面よりもオンライン授業のほうが学生と意見を交換しやすいとの印象を受けました。

学生の声を参考に改善した点

次に、学生の声から授業を改善した点についてご紹介します。勉強はどれでもそうだと思いますが、いつでも時間がある、あとで聞けばいい、あとで見ればいいと思う身が入らないものです。私は「今この時間しかない」と思わないと勉強は身に付かないと思っており、あくまでも対面授業の代替としてオンライン形式を使っているという考えから、動画視聴を授業時間だけに限定しました。そうして、その時間内で考え、質問・意見を出してもらい、それをオンラインで解説するという方式をとっていたのですが、「動画視聴が可能な時間をもっと伸ばしてほしい」という意見や、「繰り返し復習したい」という意見もありましたので、本年度からは授業前日と授業当日の動画視聴を可能にしました。1 コマの授業の中で、聞いて理解して質問・意見をするとという時間的な制約がありますが、前日から繰り返し動画を見るとよく考えることができるので、質問・意見が昨年度に比べかなり多く来るようになりました。

「レジュメに書かれていたことを、オンライン授業の部分で要約してほしい」という声もありました。昨年度はオンラインの時間で質問・意見の解説に徹する感じで、質問・意見が少ないと余った時間で要約をしていたのですが、そうした学生の声を生かし、本年度はオンライン授業の時間を延ばし、質問・意見に答えたあと、ポイントをあげながら授業内容を要約するようにしています。

また、「授業のレジュメ配布のアップロードについては、前日までに行うようしてもらいたい」という声もありましたので、昨年度はレジュメも当日のみのダウンロードに限っていましたが、本年度は動画視聴と同様に授業前日と授業当日にダウンロード可能としました。

評価方法について

評価については非常に悩ましかったです。私の授業は、授業内容を理解してもらうというもので、レポートには向きません。できれば対面で筆記試験をするのが理想ですが、それはできないということで、Blackboardの「テスト」機能を用い授業内にテストをすることにいたしました。テストは3回行いました。配点は、1回目が30点、2回目が40点、3回目が30点としました。1回目のオンラインテストは授業のはじめの15分で行いました。15分間、オンラインでアクセス可能にして、15分で行うということです。2回目は20分のテスト時間でアクセス時間は20分、3回目は、授業の最後15分のテスト時間でアクセス時間は15分ということで行いました。

学生たちを見ていますと、授業開始と同時にテストを受けてくれるかと思っていたらそうではなく、これで公開終わりですよというギリギリの時間になってから始める学生もいました。それでは、いつまでたってもテストをやっているような学生さんが出てしまいます。そういうこともあるのだなと気付きました。テスト時間中は学生同士が相談してしまうことも心配でしたので、テスト時間を短くし、問題をランダムに表示するように設定にしました。

あと、ネットが繋がらなかったから受けられなかった旨申し立てる学生が必ず出てきます。本当にネットが繋がらなかったかどうか立証することはできませんので、一切受け付けないことをあらかじめ「お知らせ」で伝えました。推奨はできませんが、スマートフォンでも受験することは可能なので、そういう恐れのある人は、あらかじめスマートフォンのアクセス方法についても確認して欲しい旨も伝えました。

おわりに

先ほど申し上げましたように、対面授業では視聴覚資料、映像資料などを使うことで、より理解を促進することができるというメリットがありますが、残念ながら著作権の問題があってオンデマンドではそのような方法をとることは難しいということもありまして、そうした点で分かりにくい部分もあったかもしれませんが、学生からのリアクションをたくさん得ることができ、オンライン授業の方式は、双方向でやりとりができた点に、実り多いものがあったと私は感じています。以上をもちまして私の報告を終わりたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

質疑応答

前田（司会） 砂押先生、ご報告どうもありがとうございました。それでは質疑応答に入りたいと思います。お二人の先生方の実践例についてでもいいですし、どんなことでも結構ですので、ご質問をいただければと思います。まず、堀川先生に対するご質問が

きています。

質問者① 対面授業において、どのようにグループ分けしていらっしゃいますか。

堀川 ご質問ありがとうございます。私の場合、対面授業では、「3～4人くらいでグループを組んでください」と伝え、自由に組ませるようにしています。教室の席は大体満員なので、一人ポツンと座っている学生はあまりいないのですが、そうした方がいる場合は、「そのあたりで組んでください」と具体的に指示を出すこともあります。基本的には学生の自主性に任せ、「大人だから指示しなくてもできるよね」と話して組ませるようにしています。

質問者① ありがとうございます。

前田(司会) ほかにいかがでしょうか。チャットで打ち込んでいただいても、マイクオンでも大丈夫です。

質問者② お二人にお伺いしたいのですが、全学共通科目の授業は履修者が多いので、テストでもレポートでも成績を付けるのに手間がかかると思います。そこで何か工夫された点や、どういうふうな感じで採点されていたかをお伺いしたいです。

前田(司会) 堀川先生から順番にお答えください。

堀川 人数が多いと、レポートやテストの採点は大変だなと思います。何年か授業を担当させていただき、対面授業では、テストにしたりレポートにしたり、出席点を重視したり、さまざまなことをやってきました。今年度は昨年度の反省も生かして、出席点を重視しています。先ほども申し上げましたがグループディスカッションを重視しているので、学生には「グループディスカッションに参加したことも成績を付ける際に重視するので、グループディスカッションに参加してください」と告知しています。日々のコメントシートも出席点と合わせて確認しています。最終レポートも出させていますが、日常的に成績をつけているので、その分、負担は減るかなと思います。それもまだ手探りなので、他の先生のご意見も伺えたらと思います。

前田(司会) ありがとうございます。続いて砂押先生お願いします。

砂押 対面授業のときは、マークシートを使わせていただいていたいました。今は、先ほども申し上げたように、Blackboardでテストを行うようにしています。具体的には複数の選択肢の問題と穴埋め問題を併用という形で行っています。

質問者② ありがとうございます。

前田 (司会) 他にはいかがでしょうか。

質問者③ 私は去年から授業は Google Classroom と Zoom を使い、小テストは Google Classroom や Google フォームなどでやっています。Blackboard はレジュメを載せる程度に使用していたのですが、今年度から立教時間や Blackboard に移行していきたいと思っています。Blackboard の使用方法は、もちろんマニュアルは出していただいているのですが、私も機械音痴でうまくできるか自信がありません。動画をアップロードしたりテストを出したりする際、実際に授業が始まる前に、何か練習する方法はありますでしょうか。

堀川 私がお答えするのが適切かわかりませんが、私自身、他の大学でも非常勤として多くの授業を持っており、混乱することもあります。学生から、「先週のあれが載っていませんでした」などと指摘されて、慌てて載せているような状況です。ただ、映像教材をつくる時は Zoom を使っていますが、一人で Zoom に入室して録画機能を使って動画をつくることのできるの、先ほど砂押先生もおっしゃった通り、何回も撮り直すことができます。余裕をもって教材をつくることのできるため、それが意味、練習につながるのかなと思いました。

質問者③ ありがとうございます。Blackboard の操作について、うまくアップロードできているかとか、小テストなどもいざ本番が始まって、全然動かなかったりすると怖いなと思ってまして。その辺はいかがでしょう。

砂押 まさに私も同じことを心配し、Blackboard のマニュアルを見ながら、立教大学メディアセンターのヘルプデスクに何度もお電話で教えていただきながら取り組み、なんとかテストを作成しました。5回も6回もテストをつくり直して、最初はすごく大変でした。でも慣れてしまうとそんなに大変ではなく、何しろ、どんどんやってみることが大切ですね。

確かにテスト本番で、失敗したらどうしようという恐怖心はあります。「操作がうまくいかないので評価はできません」というわけにはいかないの、何度も「テストのオプションの編集」のところなどを見返して確認してから、テスト本番を迎えるようにしました。

Blackboard の画面の上の方にオンにするボタンがあり、そこをオンにすると、学生側からどう見えているのかわかるようになっていきます。そこで学生が見ている画面を確認することができます。テストの作成途中で見られてしまうのではない、テストの内容が漏れてしまうのではないかというのは不安ですが、その点は「テストのオプション

の編集」で「学生に利用させる」という設定にしない限り大丈夫です。何十回失敗しても大丈夫ですので、ぜひトライしてみてください。私でさえできるようになったので大丈夫だと思います。

試験が終わった途端、一度にずらっと合計点も出せますし、そのデータをエクスポートして、エクセルに移して、グラフをつくることもできます。やればやっただけの価値はありますので、ぜひ挑戦してみてください。分からないことがあれば、ヘルプデスクに電話すれば、同じ画面を見ながら指導して下さるので、まずはやってみることをおすすめします。

あと、学生に対し得点を表示・非表示にすることができますので、そのあたりも、授業の性質によりどちらにするか、決めることができます。

質問者③ 安心いたしました。ありがとうございました。

前田(司会) ありがとうございました。他の方いかがでしょうか。

質問者④ 堀川先生に質問です。対面でディスカッションをする際、教員は教室をうろうろして全体の雰囲気をつかめるのですが、オンラインのブレイクアウトルームでディスカッションを行うと、各グループが密室状態になります。各グループに顔を出せば、グループ内の雰囲気もいい意味で変わるとは思いますが、教員はすべてのグループに顔を出せません。すべてのグループに顔を出せないという点で、何か今まで問題がありましたでしょうか。例えばジェンダーとかセクシュアリティに関して、ハラスメントと思われるコメントを受けた学生がいたなど。他の教員からは、ディスカッションの相手がカメラもマイクもオフになっていて反応がなかったなどの事例があったと聞いたことがあります。どのような問題があったかと、回避するアドバイスなどもあったらお願いします。

堀川 ありがとうございます。おっしゃる通り、対面の場合は、机間巡視などをして各グループの雰囲気を読み取りながらアドバイスをすることができるのですが、Zoomの場合はそれができず、ブレイクアウトルームはかなり多くなってすべてを回りきれません。私は事前に学生に「いくつかのグループに入ります」と伝えるようにしています。実際にいくつかのグループに入って反応を見ますが、グループによっては、「今こうしたディスカッションをしているけれど盛り上がりなくて、何を話したらいいですか」というように、アドバイスを請われる場合もあります。そのように、「いくつかのグループに行くよ」「ちゃんと見ているよ」と事前に伝えていることが一つと、先ほどスライドにも書いたのですが、問題が生じないよう、グラウンドルールの徹底をしています。

毎学期4回ディスカッションをしますが、毎回授業のはじめに、グラウンドルールを守ってくださいねと伝えます。他大学の例では、担当している授業で1件、「ジェンダー

的に問題発言をした学生が同じグループにいた」という報告を受けたので、後日、本人にそうしたことがあったのかどうか確認をしました。対応が遅くなってしまうのは今後の課題ですが、後日でも対応するようにしています。そうしたことが起きないように、「いくつかのグループに入ります」という予告とルールの徹底をすることで、ほとんど問題は起きていないと思います。去年と今年の授業を通して差別的な発言があったという報告は1件だけでしたので、基本的にはうまくいっていると思います。

質問者④ アドバイス大変参考になりました。ありがとうございます。

堀川 あと1点、ビデオをオフにして授業を受けることについてですが、「なんで全員オフなの？」と確認をするようにしています。「オンにしてください」と言うとハラスメントと感じてしまう場合がありますが、「なんでオフなの？」と聞けば、「パソコンの状態が悪いので」などと学生は言い訳することもでき、「次回は気を付けてね」と改善も促せます。「それで盛り上がるの？」などと質問し、「安心して議論できているの？」という観点から働きかけをするようにしています。

質問者④ そうした質問はいいですね。ありがとうございます。

前田 (司会) 他にいかがでしょうか。ないようでしたらこれで質疑応答は終わります。堀川先生、砂押先生ありがとうございました。